

縄文から「ほいく」 を問い直す

～人の生き方・在り方・暮らし方と保育の接面を探る～

11月15日（日）

場所：佐久平交流センター（佐久市佐久平駅南4-1）

＊JR佐久平駅南口（蓼科口）から徒歩3分

ゼロ次会(特別講演)： 10:00 ～ 11:30（申込別途）

対話会・シンポジウム： 12:45 ～ 16:30

定員先着
100名!

翌16日（月）：園見学可
（9:30～11:30）＊無料

長野で語り合おう・つながろう

保育の世界で話題となっている「暮らし」という言葉。この言葉を、様々な角度から考えてみる中で、今回はキーワード「縄文」にスポットライトを当ててみます。なぜなら、ここ佐久は縄文の里であり、今日に至っても縄文人の生きた痕跡(地域資源)は、我々に様々な示唆を与えてくれるからです。

保育を保育だけで考えず、あらゆる世界から見つめてみる。それぞれの世界の根本には、きっと共通する何か大切なものが佇んでいる。そして、今回は『縄文』のフィルターを通して、保育を見つめ直す試み。共に縄文の里・信州佐久で、その「大切な何か」を深く探る旅へ！ **保育・教育関係者だけでなく、全異業種の方に必見！**

<内容・見どころ>

point👉 対話会！

ちいろばの様々な暮らしの場面を取り上げて、参加される皆さんが様々な思いを巡らしながら対話する時間。
語り、つながろう！！

point👉 講師陣のトーク

超豪華・講師陣による話題提供と白熱必至のクロストーク！
縄文？暮らし？保育とは？
私はどう生きる？共に生きるとは？皆さんなりの問いを探しましょう！保育の枠を飛び出せ！

point👉 ゼロ次会！

スペシャルゲスト・週末縄文人（もんさん）の縄文トーク。
縄文の暮らしを現代で体感している文さんのリアルな生き様必見！
めったに聞けない話を、今！

託児は
ありません

参加費

県内 **2,500円**
県外 **4,000円**
学生 **1,000円**

＊ゼロ次回は別途設定↓

単発参加：1,800円

午後研究会も参加：1,000円

※申込はQRコードから。

3日前もしくは、
定員満員になるまで



一般社団法人 ちいろばシュレ
信州型自然保育特化型園

認定こども園 ちいろばの杜

住所／ 〒384-0704 長野県南佐久郡
佐久穂町大字八郡2893
電話／ 0267-78-3919
HP／ <https://chiiroba.schule/>
Email／ chiiroba_forest@LIVE.jp



シンポジウム・タイムスケジュール

15日(日)

10:00 ゼロ次会・特別講演 「縄文×生き方×現代」 ＊別途申込

12:40 研究会開始 対話の会（＊各分科会に分かれて）

13:30 休憩

13:35 堤氏 講演 「縄文の暮らしを旅する」

14:25 木村氏・宮武氏より 「縄文と保育と・人と暮らしと」

15:05 休憩

15:10～16:20 クロストーク 「堤氏×木村氏×宮武氏」

16日(月)

9:30～11:30 園見学 ＊別途申込者のみ

講師紹介



きむら あゆみ
木村 歩美 氏

静岡市出身。大学院修了後、公立小学校・幼稚園教諭、教育委員会事務局員、認可保育園職員、保育者養成校施設長、短大・大学非常勤講師などを経て、現在、主に保育環境の整備にかかわる研修やワークショップの講師として全国を回る。東洋大学非常勤講師（年度前半）。公益社団法人こども環境学会認定こども環境アドバイザー資格取得（2009年4月1日）。著書に『ワクワクと安心の保育環境づくりへ』（ひとなる書房 2024）、『子どもが自ら育つ園庭整備』（ひとなる書房 2018）



1962年長野県生まれ。國學院大学大学院博士後期課程修了。博士（歴史学）。専門は旧石器・縄文時代。現在、明治大学黒曜石研究センター特任教授。日本旧石器学会会長。元東京大学大学院人文社会系研究科講師。受賞歴に藤森栄一賞（1992）など。主な著書に、『黒曜石3万年の旅』（NHKブックス）。『列島の考古学：旧石器時代』（河出書房新社）



つつみ たかし
堤 隆 氏



みやたけ やまと
宮武 大和 氏

北海道札幌市、学校法人創造の森学園、札幌トモエ幼稚園・主幹教諭。子どものころに海・山・川・街で毎日遊んで暮らした経験をこれから子どもたちにも手渡したいという思いで保育者となる。「幼稚園」という場を核に子育て家庭がつながるコミュニティづくりに取り組みながら、子どもたちの日々の生活を撮影し、保育雑誌への写真提供や原稿執筆も行っている。共著書に『子どもの育ちと環境』（ひとなる書房 2008）・『子どもをあらわすということ』（北大路書房 2025）がある。

ゼロ次会特別ゲスト



週末縄文人・文さん

1992年東京生まれ。幼少期をアメリカ・ニュージャージー州やアラスカ州で過ごす。趣味は読書と美術館。（元）サラリーマン。

相棒と共にスーツのまま、週末は山に入り、縄文の暮らしをそこで体現してきた。そこにあるもので、自分たちの暮らしを生み出すために、手間暇かけて様々なモノを生み出してきた経験を、今回語っていただく。現Youtuber。共著書に『週末の縄文人』（産業編集センター2023）

ちいろばの杜は、認定こども園になって5年目。創立から15年を迎えています。

「0歳から100歳までの子どもたち」を理念に掲げ、保育園というより、「むら」のような、子どもから大人までがまた戻ってきたいと思える故郷になることを目指して日々暮らしています。

子どもも大人も、共に生きるということ、共に心地よくあるということ、そのために、一人ひとは、この場でどう在るのか？ そんな問いを携えながら、私たちなりの暮らし作りを楽しんでおります。

本研究会は、この日本で共に生きていく仲間を求めて、つながりを育む目的で開催いたします。

是非、たくさん感じて、つながって、支え合いながら、この世を面白おかしく生きていけたらと切に願っております。

（ちいろばの杜 園長 内保亘）